

「妊婦・褥婦」の健康の基本知識や診療アプローチを現代版にアップデートしよう

鳴本敬一郎

浜松医科大学地域家庭医療学講座

前回の特集「妊婦・褥婦が一般外来に來たら」の発刊（2016年1月号、松村真司先生企画）から8年が経過しました。この間、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックや気候変動、東欧・中東アジアでの戦争などの影響で、人々の生活や社会に大きな変化がもたらされました。

特に女性の健康に関しては、生理（または女性）の貧困や女性への暴力、リプロダクティブ・ヘルス、ジェンダーイシューなどの課題が浮き彫りになりました。これに伴い、プライマリ・ケアの医療現場でも、臨床推論を含む診療の在り方やケアの視点が大きく変化してきました。

そこで本特集では、「妊婦・褥婦」にフォーカスした健康の基本知識や診療アプローチについてのアップデートを行うと同時に、COVID-19、ワクチン、健康の社会的決定要因（Social Determinants of Health:SDH）、プレコンセプションケア、プラネタリーヘルスなどのキーワードに着目した特集を組みました。各トピックでは、妊婦・褥婦のケアにおいてプライマリ・ケア医が理解しておくべき病態や疾患について、さらに産婦人科医やその他の専門職との連携に必要なミニマムエッセンスが凝縮されています。

特に COVID-19 の出現によって、感染防止策の見直しや、発熱に対する臨床推論の複雑化が進みました。新型コロナワクチン接種に対する妊婦の不安、妊娠後期の妊婦における分娩施設の移動や帝王切開の増加、social distance によるヒト



との繋がり希薄化も起こりました。周産期医療の現場では、家族による分娩立ち合いの制限が加わり、妊婦・褥婦がさらなる孤立を余儀なくされました。一方で、地域の「産後ケア事業」や父親の育児休業制度の推進といった支援体制の構築もなされつつあります。

また、予防医療におけるワクチンの承認や接種推奨が急速に変化しています。新型コロナワクチンの他、ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチンの積極的勧奨の再開、RSウイルスワクチンの承認、風疹含有ワクチンの定期接種などが行われています。そこで本特集では、妊婦・褥婦へのワクチン接種に関する最新情報も整理されています。

さらに気候変動とそれによる災害の話題は、日々のニュースでよく見かけるようになりました。気候変動が健康に及ぼす影響は大きく、本特集では「妊婦・褥婦のケアを通したプラネタリーヘルスの実践」というスペシャル・アーティクルを用意しました。プラネタリーヘルスの観点から、プライマリ・ケア医が妊婦・褥婦のケアにおいてできることについて解説しています。



最後に、各執筆者の先生方には、豊富なエビデンスや経験に基づいた非常に有用なお原稿をいただき、心より感謝申し上げます。

本特集が、妊娠～産後の女性、さらには妊娠可能な年齢にあるすべての女性を対象としたケアに役立つ一助になりましたら幸いです。

